

## 旭小学校と関小学校の統合に向けた今までの検討経過について

### 1 経緯

旭地区のまちづくりについては、住み良さを高め、人口の維持増加につながるよう、他校に先駆けて旭小学校にタブレットを導入し、特色ある学校づくりを進めるとともに、日常の移動手段がない高齢者へのタクシーチケット交付、3世代同居近居等への住宅改修費等支援、別枠予算による生活道路の優先整備等、様々な施策を展開してきました。

しかしながら、全国的な少子化・人口減少の進行に加え、市街化調整区域である旭地区は、都市計画法により開発行為が原則として認められていないことから、今後も大きな人口増加を見込むことは難しい状況です。

また、旭小学校については年々児童数が減少しており、令和8年5月1日現在、全児童数は102名、全学年が単学級であり、1学年の児童数が10人を下回る学年もあります（詳細は別紙1、別紙2のとおり）。

そのような中、保護者や地域の方から「現在及び今後のこどもたちの教育環境に不安がある」との声を多くいただいたことから、市では令和6年12月の「市長キャラバン」を皮切りに、旭小学校の今後の在り方について、保護者や地域の方と意見交換を行うとともに、様々な観点から検討を重ねてきました。

### 2 学校の小規模化に伴う課題

小規模校には、教職員の目が一人ひとりに届きやすく、児童同士や教職員との距離が近いこと等の良さがあります。

一方で、保護者や教職員から寄せられた意見や、文部科学省が発行した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（以下「国手引」という。）等を踏まえると、次のような学校運営上の課題があると認識しています。

#### 【児童の生活面】

- ・クラス替えができず、その結果として友達や教員との人間関係が固定化される
- ・気の合う友達ができにくい
- ・集団生活が学びづらい、将来的にコミュニケーション等の不安がある
- ・知らないところへ行くと同年代と話せなくなった

### 【教育活動面】

- ・ 体育の授業や運動会、合唱のような集団活動の実施に制約が生じる（リレー、球技ができない等）
- ・ 持久走が毎回同じ順位になってしまう
- ・ 班活動やグループ分けに支障が生じる
- ・ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- ・ 児童から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる

### 【学校運営・教職員体制面】

- ・ 大規模校だと複数名の教員で行う教材研究も、小規模校だと一人で行うことになる
- ・ 学校行事、緊急対応を教員一人で行わなければならない
- ・ バランスのとれた教職員配置が困難

### 【参考】学校規模の適正化に関する基本的な考え方【教育的な観点】（国手引抜粋）

○学校規模の適正化を図る上では、第一に学校の果たす役割を再確認する必要があります。義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。このため、学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、時には競い合って学びを高めることを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。このようなことから、一定の学校規模を確保することが重要となります。

## 3 旭小学校の今後の在り方の検討

### （１）基本的な考え方

保護者や地域の皆様との意見交換の中で、大きく次の３つの意見をいただきました。

- ①旭小学校をできる限り存続させる
- ②旭小学校・三輪野江小学校を東中学校に統合し、小中一貫校とする
- ③近隣校に統合する

これらの案について、国手引の考え方を踏まえ、「児童生徒の教育条件の改善」の観点を中心に据え、児童数の推移や将来推計、小規模校における教育上の課題、通学の安全性、将来にわたり良好な教育環境を確保できるかといった観点から、比較・検討を重ねてきました。また、教育環境に課題や不安を感じている保護者や児童の思いに寄り添い、様々な意見を丁寧を受け止めながら検討を進めてきました。

## 【参考】学校規模の適正化に関する基本的な考え方【教育的な観点】（国手引抜粋）

○学校規模の適正化の検討は、様々な要素が絡む困難な課題ですが、あくまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきものです。各市町村においては、これからの時代に求められる教育内容や指導方法の改善の方向性に加えて、その地域がこれまで大切にしてきた学校教育の理念や考え方を土台としながら将来の地域社会でどのような教育を持続させていきたいかというビジョンを描いた計画等も十分勘案しつつ、現在の学級数や児童生徒数や将来的な人口動態等のデータの下で、具体的にどのような教育上の課題があるか、また、将来生じ得るかについて総合的な観点から分析を行い、保護者や地域住民と共通理解を図りながら、学校規模の適正化の検討を加速する必要があります。

### （２）市全体の児童数を踏まえた検討

旭小学校に限らず、市全体でも児童数は今後 7 年間で約1,000人減少する見込みとなっています。学校規模や配置については、個々の学校の状況だけでなく、市全体の状況も見据えて検討する必要があります。

今回の検討においては、市内のどの学校に通う児童にも一定の水準の教育環境を確保することを基本とし、市全体の児童数の推移や将来推計を踏まえ、学校規模や配置の在り方について検討を行いました。

国手引では、小学校について、クラス替え等を可能とするため、1 学年 2 学級以上（1 2 学級以上）が望ましいとされています。

この考え方を踏まえると、特に旭小学校については児童数の減少が進み、1 学年10人未満となる学年もあることに加え、大幅な児童数増加も見込めないことから、教育環境の改善を早期に図る必要性が高いと判断しました。

一方で、学校の適正規模・適正配置については、一律の基準のみにより判断するものではなく、それぞれの地域の状況等を踏まえ、総合的に判断することが重要であると考えています。旭小学校と同様に児童数が減少している三輪野江小学校については、旭小学校と比較して児童数の減少が緩やかであることから、今後の推移を見ながら、引き続き適正規模・適正配置について検討していきます。

### 【参考】望ましい学級数の考え方（国手引抜粋）

○望ましい学級数を考えた場合、小学校では、まず複式学級を解消するためには少なくとも 1 学年 1 学級以上（6 学級以上）であることが必要となります。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには 1 学年 2 学級以上（1 2 学級以上）あることが望ましいものと考えられます。

## 4 各案の比較検討

以上の考え方にに基づき、3つの案についてそれぞれの教育的効果や課題、将来性等を比較しました。

### (1) 旭小学校をできる限り存続させる

学校の小規模化には様々な教育上の課題があることに加え、特に旭小学校については、今後も児童数の減少が見込まれており、令和12年度の新入学児童数は6人となる見込みです。また、現在の教育環境について改善を求める切実な声も寄せられています。

従来の通学区域にとらわれず市内のどこからでも希望者が就学できる小規模特認校制度の導入についても検討しましたが、全国の事例を踏まえても、クラス替えが可能となる程度の児童数を継続的に確保することは難しいと考えています。加えて、市全体で児童数が減少する中で、小規模特認校制度によって他校から児童を集めることは、市内学校間で児童を奪い合う状況につながる可能性もあります。

以上を踏まえると、一定の学校規模を確保する見通しが立たない中で現状のまま存続させることは、将来にわたり良好な教育環境を維持するという観点から、持続可能な案ではないと判断しました。

### (2) 旭小学校・三輪野江小学校を東中学校に統合し、小中一貫校とする

旭小学校と三輪野江小学校の児童を合わせた場合でも、クラス替えが可能となる規模を確保することができず、現在の小規模化に伴う教育上の課題を十分に解消することは難しいと考えられます。

また、小学校児童の受入れに当たっては、東中学校の校舎の大幅な改修が必要となることや、中長期的には児童生徒数の減少に伴い、さらなる学校再編の必要性が生じる可能性があります。

これらを総合的に勘案し、現時点で教育環境の改善を早期に図るための案としては適当ではないと判断しました。

### (3) 近隣校に統合する

近隣校への統合については、地理的条件や今後の児童数の推移を踏まえて検討しました。

現在でも旭小学区の一部では、学区境による調整制度を利用して関小学校へ通学している児童がいることに加え、旭小学区は関小学区と隣接する地域が多く、地理的なつながりがあります。

また、関小学校については、児童数の推移によっては将来的に一部の学年で1学級となる可能性もあります。

こうした地域の実情を踏まえ、旭小学校を関小学校に統合することにより、今後、市内全体の児童数が減少する中においても、一定の学校規模を確保しながら、小規模化に伴う教育上の課題の改善につながるものと考えています。

## 5 総合的な判断

### (1) 統合についての判断

以上の検討の結果、旭小学校を関小学校に統合することが、児童の教育環境を改善し、将来にわたり良好な教育環境を確保するために最も適当であると判断しました。

小規模校の良さも踏まえた上で、こどもたちが多様な価値観に触れ、多くの友達と出会う機会が広がることで、より豊かな人間関係を築きながら学校生活を送り、それぞれの可能性を伸ばしていくことができる教育環境を整えることが重要であると考えています。

### (2) 上記判断についての説明

この考え方について、令和7年11月に開催した市長キャラバンをはじめ、保護者向けの文書や説明会等を通じてお示しし、保護者や地域の方からご意見を伺ってきました。

あわせて、令和8年2月に実施した教育委員会会議において、今までの経過を踏まえた「旭小学校及び三輪野江小学校の今後の在り方について」付議し、「こどもたちのことを考えて、早急に実施してほしい」との意見も出される中で、旭小学校については、関小学校と統合すること及び統合時期を令和10年度を目途とすることを今後の方針とすることについて承認いただきました。

また、令和8年6月に開催した「吉川市立小中学校学区審議会」において、「旭小学校の通学区域を関小学校の通学区域に編入することは妥当である」との答申をいただきました。

### (3) 統合時期及び今後の手続

統合時期については、児童数の減少に伴う教育環境上の課題をできるだけ早期に改善する必要がある一方、児童や保護者が新しい学校生活に円滑に移行できるよう、交流事業や通学方法の検討、学校施設や学用品の調整等、統合に向けた準備期間を確保する必要があります。このため、令和10年4月を統合の施行時期とします。

また、令和10年4月の統合に向け、統合が正式に決定した後に、予算編成や事業者選

定等具体的な検討・調整を進め、決定した事項を児童・保護者・地域の皆様に順次お伝えしていく必要があります。このため、令和8年9月議会に「吉川市立学校設置条例の一部を改正する条例」を提出します。

## 6 統合に向けた諸課題についての現時点での市の考え

統合によって教育環境の改善を図る一方で、通学や学校生活等に関する新たな不安や課題が生じることも認識しております。こうした児童や保護者の不安をできる限り軽減し、安心して新しい学校生活をスタートできる環境を整えることが重要であると考えています。

### (1) 児童への配慮について

円滑な統合に向け、これまでも実施してきた児童間交流をさらに充実させるとともに、現在の児童や学校の状況を把握している旭小学校の教職員を、可能な限り関小学校に配置することを検討しています。

### (2) スクールバス

統合により、学校からの距離が一定以上離れてしまい通学が困難になる児童については、スクールバスの活用を検討しています。スクールバスを活用することで、安全・安心な通学の確保、通学距離・時間の短縮、夏の暑さや冬の日没時間の早まり、急な天候の変化等による児童の負担軽減につながると考えています。

#### 【現時点での想定】

- ・国はスクールバスの目安を小学校において4km超としているが、地域の実情を踏まえて範囲を設定する予定
- ・民間バス事業者への委託を想定
- ・中・小規模バスの運用を想定
- ・乗降場所は各家庭ではなく、集合場所を何箇所か設ける想定
- ・他自治体の事例を参考にしつつ、道路状況等から吉川市にあった運用を検討していく

### (3) 通学路の安全確保

スクールバスの対象とならない児童については、新たな通学路で通学することになるため、通学路の安全確保も重要な課題であると認識しています。吉川市立小中学校学区審議会において、保護者や地域の代表をはじめとする皆様からご意見を伺いながら検討を進めていきます。

#### （４）学校跡地について

既存の校舎、体育館、校庭等の学校施設については有効活用を図る方針です。今後、統合が正式に決定した後、施設の状況や地域の実情、行政需要等を踏まえながら、市全体として検討していきます。

#### （５）体操服・紅白帽・通学帽について

旭小学校に通学している児童が学校指定体操服や紅白帽、通学帽を買い替えるための費用については、一定程度市で負担することを検討しています。

#### （６）学童について

統合後は関小学校学童への入所となる予定です。現時点では、関小学校学童の施設には受入れの余裕があることから、現在、旭小学校学童を利用している児童を含め、学童保育を利用できる見込みとなっております。

#### （７）今後の学校規模・配置の在り方の検討について

市内全体の児童数が減少する中、学校を取り巻く状況も人口動向や住宅開発、地域の実情等により変化することから、今後もその時々状況を踏まえながら、市全体の学校の適正規模・適正配置について継続的に検討していきます。

### ７ 統合に向けた説明、検討経過

#### （１）学校関係者、保護者及び地域への説明

| 実施時期          | 実施内容                                     | 参加者数 |
|---------------|------------------------------------------|------|
| 令和６年１２月２２日（日） | 市長キャラバン（三輪野江地区）                          | １３人  |
|               | 市長キャラバン（旭地区）                             | １３人  |
| 令和７年２月１２日（水）  | どこでも市長（三輪野江地区）                           | ２３人  |
| 令和７年２月２８日（金）  | どこでも市長（旭地区）                              | ２０人  |
| 令和７年１１月２４日（祝） | 市長キャラバン（旭地区）                             | ３４人  |
|               | 市長キャラバン（三輪野江地区）                          | ３３人  |
| 令和７年１２月       | 保護者宛てに、「旭小学校の在り方に関する現時点における市の考えについて」文書発出 | －    |
| 令和８年１月２９日（木）  | 旭小ＰＴＡと合同での保護者説明会                         | ２２人  |
| 令和８年５月１３日（水）  | 関小学校学校運営協議会※委員への説明                       | ９人   |
| 令和８年５月１９日（火）  | 旭小学校学校運営協議会※委員への説明                       | ７人   |
|               | 旭小学校保護者説明会                               | ２５人  |
|               | 旭自治連合会理事会での説明                            | 約４０人 |
| 令和８年５月３０日（土）  | 関小保護者説明会                                 | １４人  |
| 令和８年７月３日（金）   | 旭小学校学区の未就学児保護者説明会                        | ３４人  |
| 令和８年７月２５日（土）  | 旭地区説明会                                   | ９２人  |
| 令和８年８月２４日（月）  | 旭地区説明会（予定）                               |      |

※学校運営及び当該運営への必要な支援に関して協議する機関

## (2) 児童への聞き取り（ランチミーティング）

| 実施時期         | 実施内容                  | 参加者数        |
|--------------|-----------------------|-------------|
| 令和8年2月9日（月）  | 旭小教育長ランチミーティング（2年生）   | 9人          |
| 令和8年2月16日（月） | 旭小教育長ランチミーティング（3年生）   | 感染症流行のため中止  |
| 令和8年2月17日（火） | 旭小教育長ランチミーティング（1年生）   | 13人         |
| 令和8年5月22日（金） | 旭小教育長ランチミーティング（1・4年生） | 1年18人、4年17人 |

## (3) 両校の児童の交流事業

| 実施時期        | 実施内容              | 参加者数        |
|-------------|-------------------|-------------|
| 令和8年2月2日（月） | 小2交流会（音楽鑑賞会）      | 旭小9人、関小42人  |
| 令和8年3月6日（金） | 小1交流会（児童同士で楽しく遊ぶ） | 旭小13人、関小53人 |
| 令和8年7月3日（金） | 小5交流会（オンライン）      | 旭小21人、関小55人 |

## (4) 教育委員会会議

|        | 実施時期         | 実施内容                                                                                                 |
|--------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| R8 第2回 | 令和8年2月16日（月） | 「旭小学校及び三輪野江小学校の今後の在り方について」付議し、旭小学校については、<br>・関小学校と統合すること<br>・時期に関しては令和10年度を目途とすることを今後の方針とすることについて承認  |
| R8 第6回 | 令和8年6月24日（水） | ・吉川市立小中学校学区審議会委員の委嘱について<br>・吉川市立小中学校学区審議会への諮問について付議し、可決                                              |
| R8 第7回 | 令和8年7月24日（金） | その他として次の2点について報告<br>・第1回吉川市立小中学校学区審議会の報告について<br>・児童数減少に伴う旭小学校の学校再編に関する説明会の報告について【旭小学校区の未就学児を持つ保護者対象】 |
| R8 第8回 | 令和8年8月19日（水） | ・吉川市立小中学校学区審議会からの答申について報告<br>・「吉川市立学校設置条例の一部を改正する条例」上程                                               |

## (5) 吉川市立小中学校学区審議会

|     | 実施時期         | 実施内容                                                                                                    |
|-----|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 令和8年6月24日（水） | 諮問<br>第1号 旭小学校の通学区域を関小学校の通学区域に編入することについて<br>→妥当との答申<br>第2号 通学区域の変更に伴う児童の安全な通学に向けた通学路及び通学方法について<br>→継続審議 |